

各地で健診や健康教室

歯についての正しい知識の普及啓発と 早期発見・早期治療を市民にうながす

八尾市
八尾区
東大阪
東柏

歯周病テーマで 健康教室開く

八尾市開業・協会理事が
講演した。

東大阪・八尾・柏原地区は6月23日、医療生協八尾クリニックで歯科健康教室を開き、医療生協組合員や近隣住民など16人が参加した。同クリニックがシリーズで毎月1回開催しているふれあい健康講座で、「歯周病とハミカキ指導」をテーマに、矢部あづさ氏(八尾市開業・協会理事)が講演した。矢部氏は、歯周病はじまりは歯肉炎で20代でも約6割が罹患していることを説明したうえで、歯周組織の構造、歯周病の進行状況や、細菌が血液に乗って巡る全身的な



歯周病について分かりやすく解説する矢部氏 = 6月23日、八尾市内



口腔内をチェックする進氏 = 6月17日、八尾市内



歯の磨き方を指導する三木氏 = 6月16日、豊中市内

病気になることなど、スライドを使い分かりやすく解説した。さらに歯周病にかかりやすい口腔と全身の危険因子を紹介し、生活習慣病と深い関わりがあること、全身疾患にも影響を与えることを説明した。歯周病の治療方法や顎模型を使ってブラッシングのポイントも紹介し、ブラークコントロールや痛みがなくても定期健診に行くことが大切だと締めくくった。

受診促す健診

八尾市
八尾区
東大阪
東柏

人間のドック受診者へ

協会の東大阪・八尾・柏原地区は6月17日、医療生協八尾クリニックで人間ドック受診者を対象にした歯科健診に取り組み、47人が受診した。進正憲氏(八尾市開業)と歯科衛生士2人が出務し、

あることに驚いた、非常に参考になった」と感想も出された。

進氏は、「口の中で気になるところはありますか」と聞いたうえで、受診者からの質問や相談に丁寧に対応しながら口腔内をチェックし、その状況を説明するとともに、定期的に歯科医院を受診することの大切さを伝え、口腔内チェック後は、歯科衛生士がブラッシング指導を行った。

同地区では今後も、住民に定期健診・口腔ケアの大切さをアピールし、住民との繋がりを広げて、歯科医院への受診を促すために住民健診・健康教室へ積極的に取り組む。

歯と全身の関係話す

北大阪地区

『より良く』パンフ用いて

協会の北大阪地区は6月16日、「健康づくりセンター・たまい」において豊中診療所が主催した学習会で健康教室を開いた。三木正弘氏(豊中市開業)と歯科衛生士が出務し、

保団連のパンフレット『より良く食べるはより良く生きる』を使用して、歯とからだ全体の健康とのかわりや正しい歯の磨き方を指導した。この学習会は、健康づくりには正しい歯磨きが大切として、毎年歯の衛生週間に行われているもので、14人の参加者はむし歯や歯周病だけではなく、歯の噛み合わせが運動機能や心の病にも大きく影響すること、歯磨きは柔らかめの腰のある歯ブラシで横磨き中心に丁寧にすることなど、実技も交えて楽しみながら学んだ。

大阪社保協 国保・住民税などで 各自自治体へ要請

乳幼児医療費助成
対象年齢の引き
上げを要請

2日 門真市

要請団は乳幼児医療費助成制度について、「学校



後期高齢者医療制度に市の姿勢を正す永田氏 = 3日、茨木市内

校で怪我をしても病院に行くとお金がかかるから、何とかして学校の保健室で治してもらいたいという親が大勢いる」、「東京などでは中学校卒業前までの助成を決定し

ているのに、このまま4歳未満でよとするのは自治体として恥ずかしいことだ」と助成枠の拡大を要請した。また、同市は国保料滞納世帯割合が府下でも高いことについて、「門真市は、いま世間で話題にされているワーキングプア・格差社会が顕著に現れている自治体だ。住民はどんどん追い詰められて、自治体離れが加速し、制度そのものが崩壊してしまつてはいないか。魅力ある社会保障制度をつくる義務が自治体にはあ

る」と、参加者は門真市独自の減免制度の確立を求めた。

後期高齢者医療
市独自の減免を
協会・永田氏

3日 茨木市

茨木市への要請には、協会の永田悦夫副理事長ほか各団体から35人参加した。

同市は府下でも資格証の発行や国保料滞納者に対する預貯金の差し押さえが非常に多い。18年度は、1万円以下の滞納者に対しても行われている。

社保協側は「これは市民に対する見せしめ以外の何ものでもない、茨木市ではこれまでしないと納付率は上げられない

のか、他の市では差し押さえしなくても上げている」と追及した。

当局の事前回答の「国民健康保険制度は、相互扶助共済の精神を基本として」という表現について、「現国保法には『社会保障』とあり『相互扶助共済』とは記載されていない。勝手な解釈をしては困る」と追及したところ、担当者は回答不能となった。

永田氏は、後期高齢者医療保険制度について「市独自で減免することは考えていない」と回答があるが、市には市民を守るという責任があり、そのことを放棄しているのではないかと、独自減免の必要性を強調した。

この対応はおかしいので「市独自で減免することはないか。窓口には申請用紙も置いていないので、担当者に言ったら渋々出してやる。制度があるのにわざと使えないようにしている」とか思えないのか、国保窓口では相談内

住民税増税
減免制度の周知
徹底を

3日 摂津市

摂津市への要請では各団体・市民から15人が参加し、主に住民税について要請した。

社保協側からは、「去年と比べて収入が減り住民税が払えないので窓口で相談に行ったが、減免制度はない」と言われた。条例には減免について規定があるので窓口でこの対応はおかしいのではないかと、窓口には申請用紙も置いていないので、担当者に言ったら渋々出してやる。制度があるのにわざと使えないようにしている」とか思えないのか、国保窓口では相談内

この対応はおかしいので「市独自で減免することはないか。窓口には申請用紙も置いていないので、担当者に言ったら渋々出してやる。制度があるのにわざと使えないようにしている」とか思えないのか、国保窓口では相談内

容も残しているし、分納など親身に相談に乗ってもらえる。税の窓口でもそのような対応をしてほしい」と追及した。

同市には、①地方税法第323条を市の政策として行う②条例に規定している内容についてはキチンと行う③制度を市民に知らせる――以上の3点について念押しした。

市民への情報公開を
市民税減免対象
者の基準明確に

4日 大阪狭山市

大阪狭山市へは20人が参加し、「市民税の減免制度の『貧困により生活のため公私の扶助を受ける者』について『公私の扶助』はどのようなものなのか、ホームページを

見ても詳しいことが分からない」と説明を求めた。当局からは、明確な答えがなく「正確な決まりがないので制度を見直していること」と回答した。要請団は、「市民に分かりやすく情報公開する様、努力してほしい」と訴えた。手元に届いた住民税変更等の通知を持参した参加者は「どうして定率減税廃止の知らせがこんなに小さい字で書かれているのか。もっと大きい字で通知してほしい」と要請。当局は、「今後、参考にしたい」と回答。さらに、後期高齢者医療制度についても、「制度の内容を市民に知らせてほしい」と強く求めた。

第18回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める

医師・医学者のつどい／20周年記念行事

●9月23日(日・祝) 立命館大学・衣笠キャンパス

- 10:30～ オプション企画／立命館大学・平和ミュージアム見学会
- 13:00～ 全体会／立命館大学・敬学館230教室
 - 20周年を迎えた私たちの取り組みと課題
 - 特別講演「JPPNWの活動」 片岡勝子JPPNW事務総長・広島大学名誉教授
- 15:30～
 - 記念講演「核は廃絶できる I can, You can, We all can」
 - ティルマン・アルフレッド・ラフIPPNWオーストラリア代表
- 18:00～ レセプション／リーガロイヤルホテル京都

●9月24日(月・振休)

京都産業会館・シルクホール

- 10:00～ 市民公開シンポジウム(一般参加無料)
 - 「東アジアの非核、安全保障と日本国憲法」
 - 東アジアの非核・平和の課題、日本国憲法の役割などを報告し、討論します。
- 主催 全国反核医師の会／第18回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい実行委員会

もう、なくしませんか？
戦争、核兵器

第18回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい 20周年記念

9月23日(日・祝) 立命館大学 衣笠キャンパス

9月24日(月・振休) 京都産業会館 シルクホール

NO NUCLEAR WEAPONS
NO WAR
LOVE AND PEACE
—20周年記念—

IN 京都